



### タンチヨウの生息状況

タンチヨウは日本のほかロシアのアムール川流域や中国の东北部に1,400羽ほどが生息しています。わが国では北海道東部に1年中見られ、ツルのなかまではただ1種日本で繁殖しています。

1952年以来、毎冬に生息数の一斉調査が行われ、2015年の調査では約1,600羽を数えました。



サルンカムイ

### タンチヨウの四季

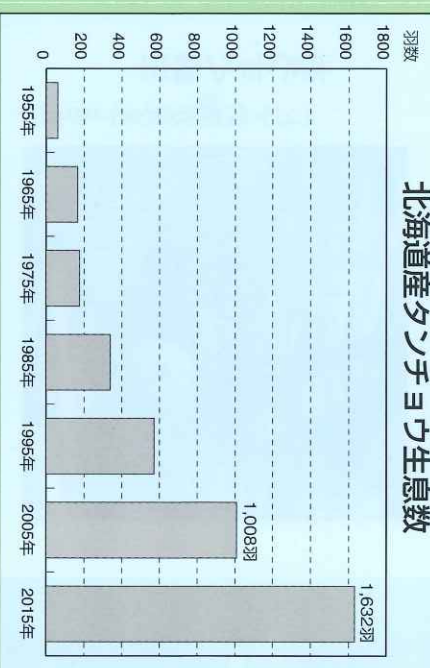
3月なかばになると、釧路市阿寒町や鶴居村の給餌場から各地の湿地帯に移動し、ヨシを使って巣づくりをはじめます。

巣ができると、長さ10cmくらいの卵を1個か2個産みます。卵は親が交代で抱き続け、約1か月でヒナが生まれます。

ヒナは約100日で親と同じくらいの大きさになり、飛べるようになります。

冬に入ると、大部分のタンチヨウは給餌場に集まっています。

### 北海道産タンチヨウ生息数





## 特別天然記念物

### タンチヨウ

英名 Red-crowned Crane  
学名 *Grus japonensis*

古くから伝わる民話の中にも登場するタンチヨウは、江戸時代まで各地でその姿を見ることができました。明治に入り個体数が減少し、全く姿が見られなくなりました。1924年、十数羽のタンチヨウが釧路湿原に確認されて以来、地元の方々の努力によって保護活動が進められ、1952年、国の特別天然記念物に指定されました。

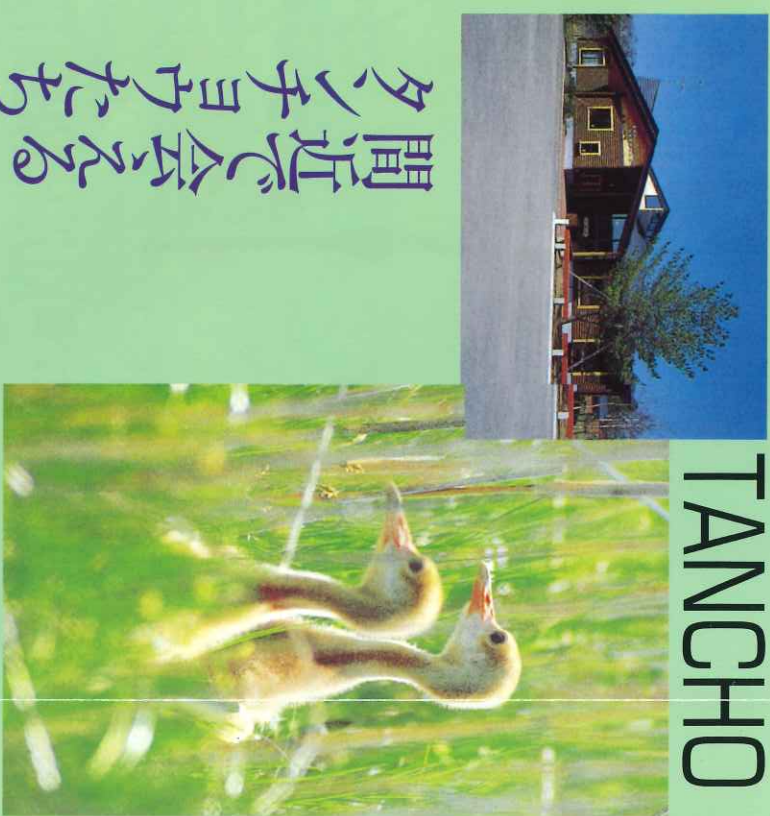
### 丹頂鶴自然公園の沿革

絶滅の危機にあるタンチヨウを保護増殖するため、1958年8月、釧路市鶴丘に5羽のタンチヨウが放され開園しました。

当初、全く生態がわからず手さぐりの状態でしたが、10年後に自然ふ化、1970年には人工ふ化に成功して以来、多くの増殖を手がけてきました。

1987年から2か年にわたり管理棟などの全面改築を行い、レクチャールーム・展示室を設けるなど、見学はもとより学術的施設としても充実されました。現在、約20羽のタンチヨウが放飼されています。

また、2000年4月から釧路市動物園に移管され、同園のタンチヨウ保護増殖センターとともに保護増殖事業の連携が図られています。



# TANCHO



タンチヨウだち

## ご案内

### 入園料

区分	金額	
	一般	団体(15人以上)
一般(高校生以上)	480円	384円
小学生・中学生	110円	88円

上記入園料は1人1回あたりのお金で、お持ち帰りのお土産は含まれていません。

■入園料の減免については釧路市動物園(0154-56-2121)へお問い合わせ下さい。

■初日は無料です。

### 開園時期

(夏期) 4月10日～10月14日/AM9:00～PM6:00

(冬期) 10月15日～4月9日/AM9:00～PM4:00

■12月31日～1月3日は休園いたします。

### ご案内図

釧路市動物園まで6km、お車で9分



ちんちん誕生  
（この瞬間を見えきた）